

銀杏企画三丁目の掲示板

[トップページへ戻る](#)

Name 国土無双	e-mail
Title	
Message	
<input type="button" value="とうこう"/>	

[1145] 山梨県の就労支援の話 2008年11月28日 21時34分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

先程の記事の続きです。

障害者の就労支援に携わる甲府圏域地域療育コーディネーターの出口幸英さん(38)は「一概には言えないが、知的障害は単純作業を長時間続けられる特性がある。精神障害者も、短時間なら障害のない人と同等の仕事ができる」と話す。

ただし、周囲の理解と支援が不可欠。それさえあれば、障害者が収益を生む事業を営むことは可能と出口さんは考えている。

実際、南アルプス市の「みらいコンパニー」は果物や野菜の生産・販売で収益を上げている。同市の「どんぐりの家」は「癒やし」ブームに着目。「コケ玉」を育てて販路を拡大しようとしている。

生き生きと仕事のできる確かな居場所があれば、本人も家族も希望を見いだせる。それを受け止められるかどうか、社会の側も問われている。

毎日新聞 2008年11月28日 地方版

銀杏でも、カレンダー作りなどしているようですが、何か、外に売り出せる商品などを作れないでしょうか。

恐怖突入の精神で、何かにチャレンジできるような作業所になれば、メンバーの方の

経済的、精神的充実につながるとは思いますけど……
偉そうでしたら、済みません<(_ _)>

[1144] 山梨県の就労支援の話 2008年11月28日 21時28分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

先程の記事の続きです。

「みんな仕事にプライドを持っている。『人と同じようにする必要はない』と言えば、思いもしない作品が出来ます」(斉藤さん)。基本的な技術は身についた。来年は木を模したナイトランプに挑戦しようと考えている。ナイトランプは、作家によっては数十万円する商品もある。商売として成り立つ可能性が十分にある。

甲府市の30代の男性は、ひかりハウスに通い初めて10月で1年になった。母親(66)は「良く続いている」とうれしそうだ。

男性には20歳のころ、精神障害の症状が表れた。「心の中から声がする」というようになり、入退院を繰り返した。たどりついたのが、ひかりハウスだった。仕事に出るのがおっくうになる日もある。そうすると斉藤さんから「待ってるよ」と電話がかかる。

「待っていてくれる人たちがいるのがうれしい。この仕事なら頑張れると思う」と男性は話す。技術も身につき、他のメンバーを指導することもある。「1人になっても、大丈夫じゃないかな」

母親は今夏、展示会で初めて息子の作品に触れ、その才能に驚いたという。「『こんなことができるのか』と。優しい子なんだけど、仕事が続かなくて心配だった。光が見えてきました」

次に続きます。

[1143] 山梨県の就労支援の話 2008年11月28日 21時27分

国土無双さん e-mail

今晚は、国土無双です。

今日は今まで、溜まっていた入荷を全部空けて、職場は修羅場でした。これから、年末にかけて、ますます、忙しくなりそうで、体調が少し、心配です。ところで、又、障がい者の就労支援の話、ネットで見つけましたので、投稿します。

働いて生きる:障害者自立支援法、完全施行から2年 / 下
得意分野生かす仕事 / 山梨

問われる「確かな居場所」づくり

甲府市天神町のNPO「いでたちの家 ひかりハウス」。一軒家を借り切った作業所では、知的障害や精神障害を持つ人たちが、黙々と色とりどりのガラスの断面を削ったり、ガラス片を組み立てたりしている。制作するのはスタンドグラス製品。目標は「売れる商品を作る」ことだ。

ひかりハウスは06年1月、福祉施設職員だった斉藤加代子さん(58)が設立した。

当初は農作業が中心だったが、長年スタンドグラスを制作してきた姉の河口妙子さん(61)の協力を得て、スタンドグラスを始めた。「日常生活では触れられない『きれいな物』を身近に感じてほしかったし、さまざまな工程があるので個性に合わせた作業ができると思ったのです」と斉藤さんは語る。

ひかりハウスには現在、20～65歳の男女9人が通う。携帯電話のストラップや小さな容器をバザーなどで販売している。

1日の作業量や手順は決められていない。集中力は続かないが手先が器用な人、逆に細かい作業は不得手だが根気のある人もいる。気が乗らなければ休んでもいい。各自の得手不得手に合わせて仕事を振り分けている。

次に続きます。

[1142] バックアップは慎重に 2008年11月27日 21時29分

国土無双さん e-mail

今晚は、国土無双です。

ブルーアイズさん、銀杏ではパソコンでカレンダー作っているんですね。どんな、カレンダーが出来るのか見てみたいです。11月の分まで、カレンダー製作されたのに、データが消えてしまったというのは残念です。データのバックアップは慎重に行った方が良いでしょう。来週から、又、一から出直しだそうです。ブルーアイズさんの対物ポイント生かして、頑張るって良きカレンダー作ってください(^_-)-

[1141] ガビ～ン！！せっかく途中まで作ったのに(ToT) 2008年11月27日 20時0分

ブルーアイズさん e-mail

こんばんは。ブルーアイズです。

今日は就労以降コースのパソコン教室がありました。一ヶ月か二ヶ月くらい前から来年のカレンダー作りに取り組んでいます。専用のソフトを使ったりネットを利用すれば作るの簡単なのですが今まで習ったパソコン操作のおさらいの意味も含めてやろうということです。

ブルーアイズも四苦八苦しなから取り組んできて今日でようやく11月のカレンダーまでできました。

あとちょっとで12月まで出来上がり完成まじかです。

そこまでできたときちょうど今日のパソコン教室の終わる時間となり

「ああ、やっとここまでできた。来週には完成するな」とホッとして

保存しようとして

ところが！！

なんと保存しようとして操作を間違い、今まで作ってきたカレンダーが全部消えてしまいました！！

ガビ～ン！！せっかく一生懸命作ってきたのに…(ToT)

来週からはまた一からやり直さなければいけません…

みなさんもうっかり大切なデータを消去しないようにお気をつけください。

[1140] 花痴 精力体感レポート! 2008年11月27日 11時26分

漢方中華さん e-mail info@kanpouc.com

漢方中華

info@kanpouc.com

花痴 精力体感レポート!

花痴は、日本では超有名な女性用媚薬の王道！！

長年の研究の末に開発された一品で、その力は超強力で、いとも簡単に女性の本能を剥き出しにします。どんなに性欲のない女性でも、これにかかえればイチコロ！？液体タイプなのでドリンクにも混ぜやすく、これを使っていい思いをした男性は星の数ほどいるのでは。

しかも純漢方薬草成分なので、体にも優しく副作用を思わせる報告は今までされた試しがありません。これで駄目ならお手上げ！？くらい凄い力を秘めています。

花痴は高度の濃縮液体で、性行為に冷淡なせ性に効果を発揮します。服用後30分間後に効果がで、セックスを求めるようになるなります。効果が強力なため工作中や外出中に飲まないでください。服用後2時間以内に車の運転や危険な仕事をしないでください。

花痴: <http://www.kanpouc.com/product.php?id=127>

漢方中華:www.kanpouc.com

[1139] 精神障がい者に焼き物教える陶芸家 2008年11月26日 21時38分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

先程の記事の続きです。

薬の影響で手がうまく動かない人もいる。体調が悪く、日によっては30分で切り上げる人もいる。現在通っている30～60代の8人の個性を生かし、作品を作るにはどうすればいいか、試行錯誤が続く。「仕事を見せることも仕事だ」と午後の作業の時間に一緒に創作する。

入院や加齢などの理由で工房を離れる利用者もいた。「本当に頑張っていて、頑張っていた」。障害の苦しさに耐える姿を思い出す。

運営主体は社会福祉法人に変わり、06年の障害者自立支援法制定で工房は就労や生産活動の機会を提供する「就労継続支援事業」になった。法律の施行で「工賃倍増計画」をうたう厚生労働省に対し、働くことだけが自立ではないと疑問を持つ。「どうしても働けない障害者もいる。工房は、障害者が生き方を楽しむための支援をする。いろんな価値観を認められる福祉制度であってほしい。ここは焼き物を楽しめるところであればいい」【山崎理絵】

=====

人物略歴

すがわら・じゅんいち

笠間焼工房「陽」工房長。北海道上砂川町出身。旭川市窯業指導所、県窯業指導所(笠間市)で研修を受ける。76～78年、笠間焼の工房で働いた。笠間市大田町在住。

毎日新聞 2008年11月26日 地方版

作業所の役割は職業訓練や、社会適応プログラムなどいろいろあると思いますが、職に就いている国土無双が書き込むのもなんですが、働けない、精神障がい者が楽しめる作業所というのはいいと思います。
銀杏は今後、どのような、道に進むのでしょうか？

[1138] 精神障がい者に焼き物教える陶芸家 2008年11月26日 21時33分

国土無双さん e-mail

今晚は、国土無双です。

このところ、職場の状況が余りに大変で、出勤するのが憂鬱です・・・
この掲示板も、書き込み少なく寂しいですね・・・

ところで、ネット情報を見つけましたので、投稿します。

新しいばじん： / 22 精神障害者に焼き物教える陶芸家・菅原淳一さん(54) / 茨城
生き方楽しめる工房に

素焼きをする前のオカリナの音色が、小さな工房に響く。笠間市の保健所跡の一角を利用した、精神障害者のために作られた笠間焼工房で、北海道出身の菅原さんが20年間、苦労を重ねて陶芸を指導している。

菅原さんは大学受験のため浪人中、雑誌の記事で知った陶芸を志した。北海道旭川市と笠間市で窯業研修を受けた後、故郷の北海道上砂川町で窯を開いた。山の中で、1人で粘土や鋳物を探し、うわぐすり作りにも熱中した。しかし炭鋳の町には高齢化が忍び寄り、焼き物の産地でない土地で1人で続けることが不安になった。

87年、かつて修業した笠間に家族を連れてやってきた。「どうなるか分からないけど、また戻ってきちゃった」

ちょうどそのころ、笠間保健所が中心となり、精神障害者のための笠間焼の作業所作りが進められており、指導員の依頼が舞い込んだ。精神障害のことは知らなかったが「純粋に焼き物を教えよう」と引き受けた。

1人で創作していた時とは違い、十数人が身を寄せ合う空間での作業だった。障害を抱えた利用者に作業をしてもらうのは簡単ではなかった。朝、建物を見ただけで足が動かなくなることもあった。「自分が居心地のいい場所にすればいい」と考え直した。「つらい」という考えから離れると、次第に作業場が障害者にとっても居心地のいい場所になっていった。

次に続きます。

[1137] イタリアのバザリア法の現状 2008年11月25日 17時28分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

先程の記事の続きです。

また、病院に代わるサービス拠点の地域精神保健センターは、「週6日・1日12時間」以上の稼働のものがイタリア全土で707か所。うち24時間365日フル稼働のセンターは50だ。この「年中無休」こそが、地域精神保健サービスでは最も大事だ。しかし、「バザリア法ができて30年もたつというのに、まだ、たったの50ですよ」とジャンニケッタさんは自国の改革のスローテンポにいらだちを見せた。日本に比べれば、これでも夢のような数字なのだが。

180号法によって、社会的危険性を理由にしての強制治療がなくなった。「180号法は、治安的性格を捨てた世界でも稀有な精神保健法なのです。そのうえ、私立の医療機関が強制治療をすることも禁じました」と大熊さんが付け加えた。

だが、「現在のイタリア右派政権はこの強制治療を復活させる改悪法案を提出しようとしています」とジャンニケッタさんはいう。この動きに対して、家族会や当事者組織は猛反対をし、国会議員に働きかけ国会での審議に待ったをかけている。その運動の先頭にたっているのが家族会に属する女性たちで、次のようなスローガンを掲げている。

「収容所回帰は許さない、もちろん、家庭を収容所にすることも許さない」

なお本セミナーは、千葉県市川市で精神疾患を持つ人々の社会復帰をめざす「NPO法人リカバリーサポートセンターACTIPS」と「NPO法人NECST」の主催で行われ

た。

日本の「自立支援法」とは全然違い、精神科医が内部告発して、新たな法律を作ることに尽力したというのは、素晴らしいと思います。

イタリアに行ったことはありませんが、国民性はどのようなのでしょうか？

精神疾患に対して、地域で支援していくというの、住民の理解が無ければ難しいものだと思います。

我が国のお偉いさんにも、イタリアの試み見習って欲しいものです。

[1136] イタリアのバザリア法の現状 2008年11月25日 17時23分

国土無双さん e-mail

国土無双です。

先程の記事の続きです。

「選ぶべき道は一つ。病院に頼らずに地域で支える新システムをつくるしかないはずなのです。しかし、その方向に向かわなかった国アメリカでは、多くの人たちが路上に放り出され、ホームレスとなりました」

イタリアはアメリカとは違って、徹底した地域保健サービスの道を選択した。その改革の先頭に立ったのがフランコ・バザリアだ。精神病院院長だった彼は、精神病院の実態を世に知らしめるため、写真集の発行や、テレビ放映や、本の出版という、いわゆる“内部告発”に知恵を絞った。精神病院という名の『収容所』に、患者という名の『囚人』たちが、隔離され、捨てられ、死んでいく、そんなおぞましい姿を白日の下にさらした。

「こうして1960年代後半には、すでに地域保健サービス網をつくるための実践が動き出しました。1968年には旧来の精神保健法が部分的に改正されて、精神保健センターの設置が可能になりました。これが1978年の180号法の開花に道を開いたのです」

そして次のような数字が紹介された。

1971年には、9万4,800人ものがマニコミオ(精神病院)に入れられていた。180号法ができた1978年にはそれが6万4,752人に減り、20年後の1998年には7,704人に、そして20世紀の終わりにはゼロになった。今の精神科のベッド数は、総合病院の精神科と私立病院を合わせても1万床に届かない。

「イタリアの人口は5,500万で、日本の半分です。その日本の精神病院は、いま実に35万床ですから、イタリアの改革がいかに徹底したものがわかります」と大熊さんが補足説明する。

次に続きます。

まえのページ

パスワード

削除番号

1145

記事削除

